

「2014 こどもホタルエンジャー」

活動報告用紙

※この用紙には、先生や団体の代表者の方が記入してください。

① 団体名 (学校、企業、NGO/NPO など)	よみがな しものせきしりつ すまくらしやうがっこう 下 関 市 立 角 倉 小 学 校 こどもホタルエンジャー
③ 活動名「タイトル」	よみがな へいけのしまにへいけぼたるを！ ほたるふつつたいさくせん 「平家の島にヘイケボタルを！ホタル復活大作戦」
④ 活動場所	下関市立角倉小学校内ビオトープ
⑤ 今回活動した こどもの学年・人数	(例：小学〇年生 〇人、 中学〇年生 〇人) 小学6年生 71人
⑥ 活動期間	2014年 5月24日 ～ 2015年 3月 20日 (※継続年数 1年未満)
⑦ おもな受賞歴	なし
⑧ 団体(学校・企業・NGO/NPO など)の紹介(400字程度で簡潔に)	
下関市立角倉小学校は、本州最西端の街・下関市の中でも最も南端に位置する彦島にある。彦島の面積は9.8平方km、人口は約3万人で本州・北海道・九州・四国・沖縄本島を除いて日本有数の人口の多い島として知られており、島内だけで5つの小学校がある。彦島には、三菱重工業(株)下関造船所をはじめ多くの企業の工場があり、戦前からいち早く工業が盛んな地域として発展してきた。また、日本一のふぐの水揚げ量を誇る南風泊市場があり水産業が盛んな地域でもある。 歴史的には、源平の戦いで西国へ追われた平家一門が最後の本拠地として選んだ地がこの彦島で、今でも島内には清盛塚など平家ゆかりの史跡が残されている。また島全体が関門海峡に面しており、宮本武蔵と佐々木小次郎の決闘の地として有名な巖流島もすぐ対岸にある。島内には河川がほとんどなく、急速に進んだ工場の立地と人口の増加に対応できるだけの水道事業が展開できないことから、彦島市としての単独の市制施行を断念し、下関市と合併した経緯がある。 本校の周辺にも、河川はおろか、水田等は全く見られず、点在する山林以外は全て住宅地となっている。このため、子どもたちは身近に水生生物とふれあう機会とは全くといっていいほどないのが実状である。	

⑨ 活動の目的・概要(500字程度で簡潔に)	
報告するメインの取組に○を入れてください。	
☐	ホタルや水辺の生きものに関する観察・保全活動などの取組
☐	河川など水辺における活動を基本とした、水環境の保全に関する取組
☒	いなくなったホタルや水辺の生きものを呼びもどす取組
学校内にあるビオトープに、ヘイケボタルをはじめとする水辺の生き物がすみやすいような環境をつくりだす活動を、主に総合的な学習の時間と休み時間を使って行っている。壇ノ浦の戦いの前に平家が最後の砦を築いた島として知られる彦島にも、70年ほど前まではヘイケボタルが見られたとされていることから、その平家にちなんだヘイケボタルを復活させようと、まずは、下関市にある豊田ホタルの里ミュージアムの協力を得て、親ボタルとなるヘイケボタルを6匹採集し、産卵と人工ふ化に挑戦した。そして、無事にふ化したヘイケボタルの幼虫の飼育を続けている。今後は、活動場所となる校内のビオトープに、ヘイケボタルが生息可能な環境を整備していくとともに、飼育したヘイケボタルの幼虫を放流する予定である。	

⑩ 活動の内容について、流れがわかるように記入してください。

なおその際、活動の成果（調べた内容や達成した内容）も写真やイラストなどを可能な限り添付（又は送付）して、可能な限り具体的に記載してください。

1 平家の島にヘイケボタルを！ホタル復活大作戦がスタート

下関市立角倉小学校第6学年の総合的な学習の時間に行う活動を6年担任で検討した結果、校内にあるビオトープを舞台に卒業記念の意義も込めて、「角倉みらいプロジェクト～もっとすてきなビオトープにしよう」との单元名のもと活動に取り組むことにした。子どもたちの中に、3年前に教職員とPTAが協力して整備したビオトープがだんだんと荒れ始めていたため、自分たちの手でもっときれいにしたいという思いがあったからである。

早速、子どもたちはビオトープの現状をつぶさに見ていった。すると、「池がとても汚れている」「生き物が少ない」「池の水が臭い」などといった感想を持つに至った。それもそのはずで、ビオトープにある池に注いでいる水は水道水で、常時ではなく時々、池の水が減りすぎた場合にだけわずかな水量を池に入れていたのだった。こうした状況が明らかになった時点で、子どもたちの中から、この池をもっときれいにしているいろいろな生き物をこの池で育てたいという声があがった。

そこで、担任である私から、彦島には河川や水田がなく、水辺の生き物が生息できる環境が少ないからこそ、この池や庭を利用として、ホタルでも育ててみてはどうかという提案を行った。すると、子どもたちから「ぜひ挑戦したい」という声があがった一方、「でも、ホタルはきれいな水じゃないと育てられんよ」「ホタルを飛ばすなんて、そりゃ、無理いね」という反対の声も聞かれたため、ホタルを育てるかどうかの結論は出なかった。どうしてもホタルを育てたいという子どもたちの中には、ホタルについて詳しく調べてくる子どもの姿が見られた。私は、授業でホタル飼育についてどうするのかを話し合う場を設定した。慎重派の子どもたちからは、「簡単に育てられるのですか？」「えさはどうするのですか？」「今、池にいる生き物はどうなるのですか？」などといった質問が出された。それに対し推進派からは、「ヘイケボタルだったら、水が少し汚れていても生きていけるそうです」「えさはカワニナでもタニシでも食べるので、大丈夫です」「ホタルがすめる場所をつくれれば、今いる生き物もそのまま飼うことができます」など、ヘイケボタルだったら育てられるという主張を熱く語っていった。さらに、歴史好きな子どもから「彦島は平家の島だから、ヘイケボタルが飛んだらすごいことになると思う」との言葉も聞かれた。こうしたやり取りの後で慎重派の子どもたちも、ヘイケボタルの復活をかけた挑戦を行うことに同意し、学年全体としてこのヘイケボタルの飼育に取り組むこととなった。

後日、学校を訪れた地域の古老の話によれば、70年前までは学校周辺にもまだ田んぼがたくさんあって、ヘイケボタルが飛んでいたが、その後、急速に住宅地が開発されたため、ホタルは全く見られなくなったということだった。



ビオトープの見学の様子



ホタル飼育について話し合う子どもたち

2 ヘイケボタルの飼育に挑戦

6月21日に、下関市内にある豊田ホタルの里ミュージアムにある人工水路から、許可を得て6匹のヘイケボタルを採集した。その後、教室内で飼育を続け、6月下旬には産卵した卵を確認した。7月12日には、約100匹のヘイケボタルの幼虫が孵化した。「どこにおるん？えっ、こんなに小さいの！」とヘイケボタルの幼虫のあまりの小ささに、子どもたちは驚いた様子だった。その後も孵化が続き、200匹を超える幼虫がいることを確認した。それからすぐに夏休みを迎えたため、孵化した幼虫は温度と水質管理の万全を図るため、私が自宅に持ち帰り、2つの水槽を使い、餌やりと掃除を続けた。2学期からは、その内の1つの水槽を子どもたちの手で管理することにした。万が一の場合に備えて、2箇所分散して飼育することにしたのである。

学校周辺では餌のカワニナやタニシが確保できなかったため、市内の別の場所にあるホタルが生息していない用水路から、定期的に補うことにした。合わせて、メダカを飼育している教室内の水槽とビオトープの池にカワニナを放流することにした。

私がこれまでの学校で子どもたちと保護活動に取り組んできたゲンジボタルと比べ、ヘイケボタルの成長は驚くほど早く、中には8月から夜間に発光している複数の幼虫を見つけた。子どもたちがこの光景を目にすることは難しいので、幼虫のこうした神秘的な様子を事細かに伝えるようにした。このことがきっかけとなり、自主学習としてホタルの発光について調べ活動に取り組んだ子どもの姿も見られた。

初めてヘイケボタルの幼虫を目にした子どもたちは、毎日のように飼育水槽を覗き込んだり、汚れを取り除く掃除に取り組んだりするようになった。中には、ホタルの飼育日記を付け始める子どももいた。



ヘイケボタルの成虫を観察する子どもたち



飼育水槽の掃除に取り組む子どもたち

3 ビオトープ改造計画

11月18日、これからビオトープにつくっていきたいものについてみんなで考えていった。当日は地域住民の方も参加して下さり、専門的な見地から子どもたちが考える様々な構想についてアドバイスをもらった。その際、妥当性、公共性、実現可能性の三つの観点を示してもらい、これらがクリアできる計画を立てよう子どもたちに促した。子どもたちからは、今のビオトープのままでは、ホタルがすめる環境が整えられていないため、ホタルが放流できるようなせせらぎをつくりたいという声が多く上がった。ただ、せせらぎをつくるには費用も時間もかかりそうなことから、どのようにつくっていくのかという具体的な計画を立てるまでには至らなかった。その他のものとして、池の観察が自由にできるように橋を架けるという案や、遊歩道をつくってその傍にベンチをつくるという案、さらには花のアーチ、花壇、看板やシンボルをつくるといった案が出され、実際に寸法を測ってイメージ図にしていくなかで活動が展開された。地域の方も、熱心に子どもたちの相談に応じてくださり、後日、不要になった廃材等を学校に提供してくれた。



地域の方々からアドバイスを受ける子ども



池の水の汚れ具合を調べる子どもたち

4 ビオトープの池掃除

子どもたちがすぐにでも行いたいと願っていたのが、ビオトープの池の掃除だった。11月25日、あいにくの雨模様となったが、6年生児童71名と地域の方々、それに教職員合わせて80名を超える人員で池の水を全て抜いて大掛かりな池掃除を行った。地域の方々は、池にせり出して生えていた松の木をチェーンソーで切り、池にこれ以上枯葉が落ちないように対策を講じた。子どもたちは、池にすむ様々な生き物の救出作戦を始めた。大小さまざまな川魚やドジョウが次々と見つかり、子どもたちの手で大型水槽に移された。エビやザリガニも見つけ、バケツに移していった。その後、底に溜まっている大量のヘドロの除去作業に取りかかった。池に溜まったヘドロの厚さは何と20cm以上もあった。この池掃除は3時間を超える作業となったが、最後には、きれいになった池の底のコンクリートが現れ、無事に作業を終えることができた。なお、池の一部分を仕切って、水草を育てられるスペースを新たに設けた。回収したヘドロは、天日干しを施し、来年度の5年生がバケツ稲を育てる際に使う土として再利用することにした。



地域の方々と一緒に池掃除を行う子どもたち



きれいになった池

5 設計図づくりと今後の展開

ビオトープに整備するものとして、ホタルがすめるせせらぎのほか、ベンチ、橋、看板、花壇、花のアーチ、シンボルをつくっていくことになった。いずれも、卒業記念事業の一環として、1月から2月にかけて実施することにした。

12月1日、そのための設計図づくりに取りかかった。実際に設置する場所に出向き、細かい寸法を図った上で、地域の方々からのアドバイスを受けながら、用紙に設計図を描いていった。使う材料についても検討が行われ、製材所からいただいた端材などを使い、なるべくお金をかけずに、しかも10年以上持ちこたえられるような材料を集めるなどの準備を進めていくことが決められた。



池の大きさを測る子どもたち



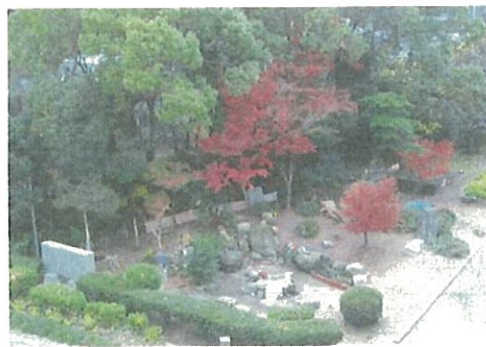
ホタルのための水路の設計図を検討する子どもたち

ヘイケボタルが生息できるせせらぎをつくる計画を立てた子どもたちがくわしく調べてみると、以前池に流れ込んでいた水路の跡を見つけた。今は、樹木が生えて荒れているのだが、それを取り除けば利用できることが分かった。さらに、地域の方が具体案を示して下さった。(別紙参照)それによると、新たにポンプを使って水を循環させる仕組みをつくり、手作りのろ過装置やホタル飼育水槽、さらには以前使っていたと見られる水路にパイプを敷設しきれいな水を送り込み、その水路にヘイケボタルの幼虫を放流するというものである。さらに私から、これまで、水道水の流入だけに頼っていた水源を、雨水利用ができるように改良することを提案した。具体的には、新設するろ過装置とホタル飼育水槽の上に屋根を設置し、その屋根に降った雨水を溜めるタンクからホタルの飼育水路に雨水を流すというものである。これらの案をもとに、地域の方々の協力のもと1月から本格的なビオトープ整備事業を開始し、子どもたちが小学校を卒業する3月には、飼育を続けたヘイケボタルを放流する予定である。

成長したヘイケボタルの幼虫



ビオトープの全景



⑪ 活動で工夫したことなどを記入してください。(800字程度で簡潔に)

指導者側として、この活動で工夫したことは、以下の三つが挙げられる。

一つ目としては、活動全体を通して、子どもたちが自己決定できる場を繰り返し設定したことである。ホタルの飼育に学年として取り組むのかどうか、ピオトープに何をつくるのか、自分はどの活動に参加するのかなど、子ども主体の学習が展開できるようにした。中でも、議論が二分した時には話し合いの場を設け、双方の考えを交流し合う中で合意形成を図っていく過程を重視した。そうすることで、より主体的に自分たちの活動の方向性を見出すことができ、ホタルをはじめ、自然環境へのかかわり方が深まると考えたからである。

二つ目としては、地域の教育力を最大限に活用したことである。活動全体にわたって、多くの地域の方々に参画してもらい、子どもたちの計画を実現するために、技術的な支援やアドバイスを行ってもらうようにした。また、活動の具体的な方向性を決める際には、妥当性や公共性、実現可能性などの観点を示してもらい、活動がより本物となっていけるよう助言してもらった。そうすることで、地域の方々との出会いを繰り返す中で地域への愛着を深め、自分のふるさと彦島を誇れる子どもたちに成長してほしいと考えたからである。

三つ目としては、最も身近な学校におけるピオトープづくりという活動を通して、自然と人間とのつながりやかかわり合いについて、自分なりの考えを深められるようにしたことである。特に、本校は水生生物など水辺の生き物と接する機会が極端に少ない地域であり、だからこそ、ヘイケボタルを育て放流し見守る一連の活動の中で、これまで持ち得なかった水や水生生物への気付きが数多く生み出せたのではないかと考えている。この取り組みは、卒業までの一年間で終わるものではなく、卒業後も、自らの母校に築き上げたホタルの舞う環境と繰り返しかかわり続けていくのだと確信している。

なお、子どもたち側から見た工夫した点については、子どもたち自らが別紙で述べているとおりである。

⑫ この活動を通して、指導者から見た子どもたちの意識の変化、行動の変化などがあれば記入してください。

(800字程度で簡潔に)

子どもたちの一番の変容は、何よりもみんなで同じ方向性に向かって全エネルギーを注いでいくことの楽しさや喜びを感じることができるようになった点にある。この活動に6年生全体として取り組んできたが、もっとすてきなピオトープをめざして話し合いや計画案づくり、池の掃除など、数多くの場面でそれぞれの子どもが持てる力を全て出し切りながら、嬉々として活動に取り組む姿が見られた。この活動を心待ちにする子どもたちも多く、授業以外の休み時間や家庭においても、自分から進んでホタルについて調べてきたり、設計図を描いてきたりした姿に表れていた。

私が最も驚いた変容は、水に対する意識が大きく変わったという点である。子どもたちの中には、地域にある公園の水道を使って水風船に水を一杯に注ぎ、友達同士で投げ合う遊びが流行っていた時期があった。水を無駄遣いしただけではなく、散乱した水風船のゴミをそのまま放置して、地域の方からお叱りを受けたことがあった。ところが、そうした子どもたちが、このホタルの活動に組み、「やっぱり水は大切に使わないといけない」ということを私に語るようになったのである。

さらに、変容した点としては、生き物や自然といった自分を取り巻く環境に敏感になったことも挙げられる。「学校の近くの溝の水がとても汚れていたことに気付いた」「昨日の朝は、龍の渡りがすごかった（龍の渡りとは、本州で過ごしていたヒヨドリが、秋に九州へ渡る際、ハヤブサなどの天敵から身を守るために何百羽という群れとなり彦島から関門海峡を渡る様子のこと）」などの言葉が聞かれるようになった。

また、愛校心も高まったように感じている。「ぼくらのピオトープ」「卒業記念のピオトープ」という言葉が聞かれるようになり、子どもの中には『ぼくたちのピオトープには、ぼくたち6年生の魂がこもっています』と胸を張って語る姿も見受けられた。

※こども発表者については、決まっていない場合、記入しなくても構いません。

⑬ -1. 選考された場合の発表者（こども2名）の氏名・学年

氏名（ふりがな）	学年：6年
氏名（ふりがな）	学年：6年

-2. 選考された場合の大人の登壇者（1名）の氏名・所属

氏名（ふりがな）



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

平家の島にヘイケホタルを！

1.はじめに。 ～ホタル復活大作戦～

(1) 活動開始の理由

私たちがこのホタルレンジャーをはじめようと思った理由は、私たちがすむこの平家の島にヘイケホタルを飛ばしたい!!という思いがあったからです。時には言い合いなどになってくじけそうな時もありました。それでも昔をよみがえらしたい。飛んでいたホタルの光をこの島に復活させて地域の方々に喜んでもらいたい!!そして生き物を大切に、育てる大変さを知りたかったと思いました。

それから はじめのころは「ホタルを飛ばしたい」という人々と、「ホタルなんて無理」という人たちが半々ずつで、とてもみんなで取り組むことなど難しい感じでした。そこで、私たちは、ヘイケホタルの特長やなどについて調べたり育て方について、調べたりそのようなことを、ホタルに命をかけてやりました。

その後先生が、話し合いの場を設定してくれました。話し合いでは私たちが「ホタルを飛ばしたい」グループと「ホタルなんて無理」グループの人に分かれてお互いの考えを聞き合いました。ホタルの特長やホタルのえさ、育て方などをていねいに説明した結果最後は、学年みんなで、ヘイケホタルを飼育してほう流することが決まりました。私は大きくなっているホタルの成長を見るのがとてもうれしいです。ほう流する時がとても楽しみです!!

6年生全員でどんなビオトープにしたいか考えたときに、

「地域の人に大事にされるビオトープ」

「ホタルのすめるビオトープ」

などの意見が出ました。

私たちは、このことを目標にビオトープ作りを、

がんばっていきたいです。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

(2) 活動の目標

私たちの活動目標は、ホタルを70年ぶりに平家の島にふっ活させビオトープ(学校にある池)にヘイケボタルをとばすことです。

地いきの方々のお話を聞くと約70年前にはたくさんのホタルがとんでいたとあっていました。彦島の田んぼにはたくさんのホタルがいましたが、人口が増え、田んぼがつぶされ、家がたったので彦島にホタルがいなくなっていました。こ彦島は、平家の島です。平家の島にヘイケボタルを飛ばすというのも目標にしています。歴史の勉強で源平合戦の最後の戦いかなんかのうらの戦いで、下関に關係しているんだなと思いました。さらに調べると、平家で一番強かったといわれた平知盛が彦島に最後の陣を置いたことも分かりました。だから、平家の島なので。

目標はとっても難しいけれど、順調に進んでいます。これからみんなでがんばります。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

2. 今までの活動内容

(1) ホタルの飼育

6月21日、豊田町のホタルの里 ユージウムからホタルの成虫を6匹まいたとき、飼育することになりました。最初はホタルの飼育方法が全く分からず不安や疑問、反対する人も多く、「このままで いいのかな…」と心配していました。しかし、みんなが「ヘイケ ホタルについて調べたり活動していくうちにみんなが一つになり、心配がなくなりました。」

6月下旬、卵が産まれました。残念ながらそのころには成虫がほとんど亡くなっていました。

約1か月後の7月12日、卵がふ化し、新たな命が誕生しました。自然界では生存率は約1%（幼虫～成虫）と聞いてきたので不安がたかざんでした。ホタルはすごく小さくて、見えにくいぐらいでした。

一学期が終わり、夏休みになりました。夏休み中は先生が飼育してくれました。

二学期になりました。ホタルの幼虫を見てみると、少し大きくなっていることが分かりました。亡くなっているものも少なく、川原調に進んでいきました。しかし、生存率が低いホタルは次々に死んでいきました。それでも生き残っているホタルは、元気に育っています。

ホタルの生き残りには、アサギは、クラスにあるホタルの生き残り



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

てなエサ不足を心配しています。

10月、11月 といった間にホタルが増えていきます。また、ホタルの飼育は終わってしまいましたが、ホタルを育てる楽しさや、ホタルの生態を学ぶことができたと思います。また、ホタルの生態を学ぶことができたと思います。

2学期になつて子どもたちとホタルに関係をもつ人が増えました。休み時間に、スポットでホタルを飼育している水そうを覗きしている人や、ホタルのエサを水そうに入れている人がいました。最初はみんなが「バラバラだ」けれど、だんだんと、まとまってきたと思います。

→
ヘイケボタルの観察
→



↑
カワニナを水そうに入れる



2014 こどもホタレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

2. 今までの活動内容

(2) 池の入ぞうい

11月下旬に「学校の池をきれいにしたい!!」という強いみんなの願いから、地域の叔父、先生方と協力して、学校の池をきれいにすることになりました。水をぬいてみると、泥が20cmくらい積もっていました。みんなで協力してスコップで泥を取りました。取った泥はバケツに入れて池の中に入れていない人が運びました。すごく重かったです。池にすんでいる生き物も救う人達もいました。三時間続けた結果、池がピカピカになりました。これは、みんなが協力してやったからだと思います。この地域は、みんなの力がすごい地域だと改めて感じました。

池にいる生き物を救う →



↑
池の水をぬきヘドロを取る →





2014 こどもホタレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

池のそうじの感想

- 。ぼくが、ビオトープのそうじで一番最初に思ったことは、においです。ビオトープは水をぬいてどろが残っているのも、ものすごくきつかったです。しかし、ずっとそこでそうじをしているとにおいにはなれました。そして、一番大変だったのは、どろを運ぶことです。

バケツに入れたどろはちょっとだけ重かったし、とくに服やはだにどろがつくのでそこが大変でした。そして、一番おもしろかったことは、魚をきれいなお水が入っているバケツに入れ替えることです。ものすごくでかい魚もいたのでびっくりしました。そうじが終わったときは、どろだらけになっていたけどビオトープはものすごくきれいになってよかったです。

。ぼくたちは、地いきの方々のおかげで池のそうじができたのは地いきの方々がかんばってくれたからだと思います。みんなと地いきの人とこれからかんばっていきたいです!!





2014 こどもホタレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っ
自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

3. これから行く、活動内容

ベンチ

ベンチはみんながきゅうけいできて、ゆた
り出来るように作ろうと思いました。
理由は、ゆくりしなげな生き物をかん
さつしてほしいと思ったからです。



看板

看板があると、少しは明るくな、てみん
なが遊びに来てくれるかなと思いました。
理由は、今まではヒオトープに遊びに
来る人数が少なくてさみしい感じた。
たので、少しでも明るくしたかったからです。



せせらぎ

ホタルがすめるようにせせらぎを作ろう
と思いました。

理由は、もともとあ、たせせらぎが今は使、
ていない状態で池の水をすいあげてちん
でんさせた水を流すため一石二鳥だなと
思ったからです。



橋

中心の方へ行くのに、1つの橋だけ
だと、こみ合、て通りにくかったの、で、
もう1つつなげて作ろうと思いました。
理由は、飛びて入る人が、いて落ちた人し
いるので、あふないな、と思い作ろうと
思いました。



花のアーチ

花のアーチがあれば、低学年が来るかもし
れないと思、たり看板と同じで、ふいん気が良
くなるかなと思いました。

理由は、今までは暗か、たので、明るくて楽
しそうな感じにしたかったからです。



花たん

花たんがあると、生き物たちがよ、て来、て
きれいな、ヒオトープになるとおも、います。

理由は、今は、少ししかないの、でも、と、こ
れいにしたかったからです。



※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

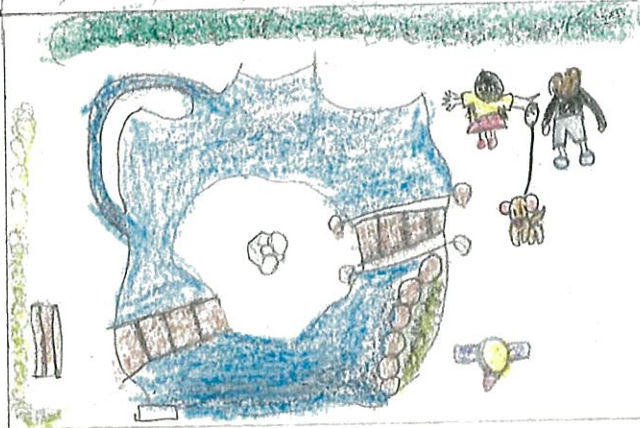
活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

シンボル

木をけずって、トーテムポールを作ろうと思いました。

理由は、木がたくさんあるだけでさみしげな感じなので、木を使って何か出来ないかなと思案からです。

完成予想図



ホタルのほう流

この物づくりが終わると、大きな、ヘイケホタルの幼虫をほう流します。ほう流するまでの期間は、長くてとても大変だと思います。し、かりお世話をごんぱりたいてす!! それから子孫が続いていて、下関の有名な所になれば良いです。

ホタルのしゅ命は短いですが、少しでも長生きして夜に、小学校が照らされてきれいな所になれば良いです。

私は、大きな、ヘイケホタルをほう流するのが

とても楽しみです。



地域の人と設計図を考える



昔の水路を発見!(木が生えている所)



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

4. 活動で工夫したこと、困ったこと

この活動では、お金をあまり使わないこと、地域の方々からいただいた材料を使用すること、使わなくなった物を再利用すること、寸法などを書いた設計図を分かりやすく書くこと、ホタルのえさを水そうで育て、えさ不足を防いでいることなどを工夫しました。どうしても買わなければならぬものは、卒業記として用意しています。材料は、地域の方々からいただいた木材などです。使わなくなった水そうや池そうじのときに使ったり、池の近くの地蔵を利用してせせらぎを作ろうという計画も立てたりしています。設計図は、これからの活動で大役に becoming するので、くわしく、分かりやすく書いています。幼虫のえさであるカワニナは、ガラスのメダカを育てている水そうなどで飼育して、どんどん増やしています。困ったことは、池のそうじのときに生き物が死んでしまったことです。ホタルがいても、他の生き物がいなければ台無しになってけうがもしれない。卒業記念事業として行ない、観望している人が集まらないと思うので、ホタルだけでなく、たくさんの水辺の生き物を増やしたいと思っています。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

5. これまでの活動の感想

私たちは、ホタルを育てました。ホタルを育てるのはたいへんだと思っていたけど、ホタルは幼虫になって元気に育ってくれています。カーニスをあげて、酸素を送ったりしています。

ビオトープをキレイにして、よりよく生き物たちがすめるように、ハドロをとって土を入れかえて、生き物をちがら氷そうに入れたそうじをしました。死んでいた魚もいたけど、

けっこう生きていたのがよかったです。これから、橋やベンチなど、いろいろな物を作って、生き物たちに今までよりよくすんでもらいたいです。

ホタルを育てて、今までよりもっとキレイで、何年後もキレイなままのビオトープを作りたいです。



※この用紙には活動に参加した子どもたちが自由に書いてください。



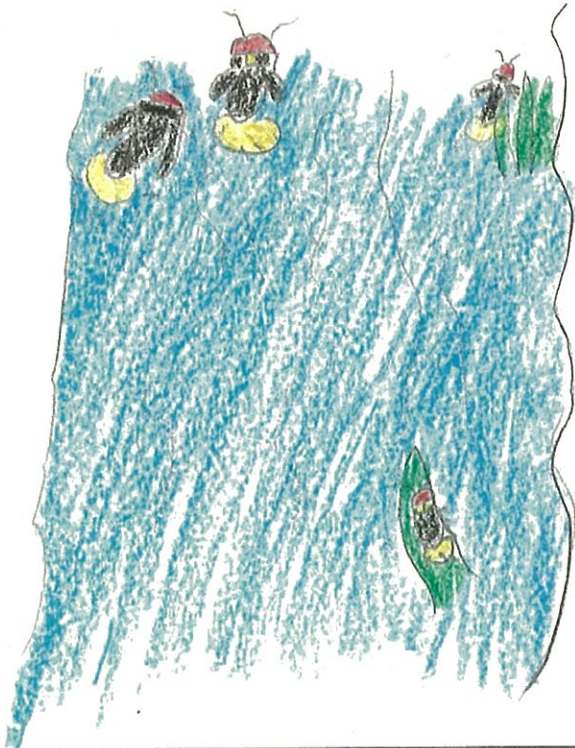
2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでもOKです。

ぼくは、ホタルをがいたいと聞いたとき、は、反対してたけど、みんなのせ、とくによて、ホタルをいへることにしました。

それでビオトープの作りも、ホタルや魚、虫などのすみやすいかんまをフルるために全力ひやりました。

ずっとビオトープがきれいで、ホタルがずっと、とんでいてほしいです。



わたしは、ホタルの幼虫を見て、りっぱに成虫になるのかな?と思いました。飼っているうちに、ほとんどが死んでいきました。わたしはそれを見てとても悲しくなりました。



早く大きくなってね、ハイクホタルくん!!



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っ
自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

活動の感想

ホタルと出会うまでは、生き物の
ことを、あまりかんがえてなかつた
けれど、ホタルに出会い、生き物
の命の大切さがわかりました。
ホタルに出会って、いなければ、
今の生き物にやさしい自分が
いなかったと思います。
ホタルに出会ってよかったと、
あらためて思いました。
これも、全部、たき口先生のお
かげだと思います。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っ
て自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

6. 活動から分かったこと

- ホタルや他の生き物が すみやすい環境をつくるの
が、とても大変だと分かりました。
- ビオトープのそうじでも多人数でやってもすぐには
きれいにならないし、雨が降ったら池に雨水がたまり
とても大変でした。
- ビオトープのまわりの土や木の葉が、そうじしたビオトープ
にはいると木の葉の栄養分と土がまざりへドロに
なることが分かりました。
- 池の水が、きれいでないと生き物は生きてゆけ
ないことが分かりました。
- ゲンジボタルは、流れる川の水でないと
生きられないけど、ヘイケボタルは、角倉の
池をきれいにすれば、すめることが分か
りました。
- 自分の地域にはとても優しい地域の人たちが、こ
んなにもたくさんいることが、分かりました。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

7. 課題

課題は池の中に泥が入ってしまうという点です。11月下旬の池の大そうじをした日の数日後、雨で落ち葉や泥がまた池の中に入っていました。このままではホタルのすめる環境ではなくなるし生き物の観察ができなくなってしまう。そこで地域の方々と相談しました。相談しているとコンクリートで土を固めるかべをつくるという意見がでてきました。地域の方々はセメントを混ぜることをすすめてくださいました。土とセメントを混ぜると土が固まりコンクリートのような大工事にはなりません。落ち葉の面は近くの松の木を切ることや池のまわりをそうじするなどの考えも出ました。この対策が役に立てばいいなと思っています。

最初は、大がかりな工事を自分たちで計画していましたが、卒業記念品でビオトープをきれいにし、ホタルをはなつというこして、大がかりな工事ははく大な費用がかかるため、きなくなりました。しかし、地域の方々のちえをかりて、なるべくお金をかけないですむ方法を地域の方がおしえてくれました。





2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

8. この活動で自分が変わったこと

- ・学校で水あそびをしていたけど、この活動をして水をもだづかいしなくなった。
- ・池をどうやったらみんなが来て喜んでくれるだろうと深く考えていたらくせがついたのか、他の事でも深く考えるようになった。例えば、委員会の話し合いなどで、こういう事を言えば、もと話し合いが盛り上がるなと思ったりした。
- ・池の生き物にとっては、ここはすみやすいだろうかというふうには生き物の視点になって考える事が多くなった。近所をさんぽしている犬はきつくないのかとか、空をとんでいる鳥はさむくないのかとか他にもホタルにとってもここはすみやすいのだろうか、といった気持ちが思いうかぶようになった。
- ・ホタルの幼虫を育てていたら、途中で何が死んでしまったのでもっと命を大切にしようと思う。最近、家に虫が入りこんでも殺さずに外に다가すようになった。
- ・ぼくはこのホタルの活動をして生まれがありました。総合の時間だけではなくて、ふだんの授業にも、しんけんに取り組めるようになりました。これまでには授業中ふざけることもあったけど、ホタルのおかげで生まれがありました。



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合って自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

学びの足あと▽

9. まとめ この活動をして感じたこと
ぼくは、この活動をしてこの山口県下関市彦島
角倉小のビオトープにたきロ先生が「ホタルをと
ばそう▽」と言ったとき、ビックリしたし正直できる
のかなと思っていました。でもこの活動を通して
ぼくは「このビオトープにホタルをとばしてみたい▽」そう感じる
ようになってきました。そしてみんなとろみれになっても
つかれていてもみんなで一生けんめいに協力あって
みんな同じ気持ちでがんばってきました。
そしてあと少しがんばったら完成です。そのため
には今までいじょうにがんばらないといけま
せん▽それでもこの学校にホタルをとばしたい▽
だからみんなでがんばり全国で角倉小の名
をおぼえてほしい▽そしてまた角倉小に入ってくる



2014 こどもホタルレンジャー報告書

活動して「気付いたこと、感じたこと、考えたこと」などを、みんなで話し合っ
て自由に報告してください。写真や絵などでも OK です。

こうはいのために このビオトープを
残しておきたい！と、ものすごく
思いました。ほくたちの ビオトープ
には、ほくたち6年生の云鬼がこもっ
ています。ほくたちは3月に卒業し
ます。でもほくたちが作った楽た
まホタルランド(ビオトープ)をいろん
な方々に見にきてもらいたいです。
あと、楽たまの意味はたのしくてた
まらない！です。ほくたちが卒業し
ても、楽たまホタルランドの活動を続けたい
です。

